

No. 2 8 4 3


初心者向け沢歩きと眺望抜群の頂上へ 棒の嶺（白谷沢コース）

実施日 2017年8月23日（水）

天候 晴れ（下山中にわか雨）

リーダー 石原 勝正

参加者 服部美千代、福島政幸、山崎富美恵、渋谷京子、石附智恵、石原勝正 計6名

費用 西武池袋線(池袋駅起算)1,940円、1,380円 計 3,320円

タイム 川又名栗湖入口 B S (9:35~10:05) 白谷橋登山口 (10:10~12:10) 岩茸石 (12:45~13:20) 棒の嶺山頂 (13:40~14:10) 岩茸石 (14:20~16:00) さわらびの湯 (17:25~17:30) さわらびの湯 B S

今日の山行は、長雨が続く今年の夏の8月20日（日）から8月23日（水）の平日山行に変更した結果、天候は朝から晴れてよかったものの、関東では最高気温35度超えとなる猛暑日の山行となった。

集合場所の飯能駅前の名郷行きのバス停は、平日のやや遅い時間もあり登山客や乗客もまばらで参加者6人空席を残す国際興業バスに乗車。

バスは（平日の午前中はさわらびの湯バス停に回り込まないため）ひとつ手前の川又名栗湖入口バス停で下車。有馬ダムに向かう急な上り坂のアスファルトの車道を歩き、さわらびの湯バス停を通過して名栗湖から道を左に折れる。



有馬ダムの堰堤を渡り、暫く湖畔に沿って回り込むと白谷沢が名栗湖に流れ込む

白谷橋の登山口に到着。登山口標識に付けられた黄色い警告板（昨年5月発生 of 白沢谷滑落死亡事故）から、参加者全員で沢筋山道での慎重な行動を再確認する。

その後スタート地点の集合写真撮影してから登山道に入る。



しばらく野草やシダの群生した樹林帯のやや平坦な登山道をゆっくりと登る。次第に岩が多くなるとともに滑りやすく濡れた山道になり、沢に落ち込むような急斜面をトラバースするように慎重に進む。



その後登山道は沢に合流し、やや平坦な河原の場所を見つけ小休憩をとる。

幾つかの小さな滝に沿って、沢の中の石の上を何回か横断するよ



うになると、両側に岩壁が迫った狭

い岩の回廊（いわゆるゴルジェ地帯で白谷沢コースの核心部）地帯に入る。



先週から雨天が多かったためか沢は増水し、大岩に沿って滝がゴーゴーと流れ落ちる。大きな滝は巻道を登り、慎重にゆっくり沢ルートを逆行する。沢筋を流れてくる快適な

冷気を浴びながら沢登りを楽しむ。

白孔雀の滝を過ぎて、沢に立ちほだかる巨大な岩壁にかけられた鎖場を登り切ると沢の核心地帯を抜ける。しばらく沢筋を登って、ルートは沢筋を離れて山道に戻る。

その後、急坂の丸太の階段を越えてジグザグに登り林道に出る。林道を横切ると丸太製のベンチのある小さな広場がありそこで休憩をとる。

林道側の広場から再び山道に入ると急登となり、蒸し暑く汗がじっと



流れ出る。暫く進むと岩茸石という大きな岩と小さなベンチのある分岐

点に出る。時刻も正午を若干過ぎていたため岩茸石で今日のランチと休憩をとる。

参加者からいただいたスイカのデザートを美味しくいただく。



棒の嶺頂上への標識に沿って単調な登りを続ける。土台が崩れた歩

きにくい木製の階段地帯を過ぎて、樹木の根が張り回っている樹林帯の登山道を登り、ゴンジリ峠を経過して山頂に到達。

山頂は晴れていたが、薄い霞がかかったようで遠い山々の展望は見えるもののはっきりとは望めない。

眼下の埼玉南部平野も展望が開けており、所沢



の西武ドームをうっすらと確認できるが遠景の都心の高層ビル街や

東京スカイツリーは見えない。

下山は登ってきた山道を下り、岩茸石から分岐する滝の平尾根ルートを経由して、川又方面と示す標識に従ってひたすら樹林帯の中を下って川又の集落に到達。



下山後は「さわらびの湯」で汗を流し、ビールで喉を潤して、さわらびの湯バス停最終便で帰路に着くことができた。

(記&写真・石原 勝正)